まんが家直伝！　達人の技で、まんながどんどん上手くなる！

Sho-Comi まんがアカデミア

達人に聞け!!

まんがが上手くなりたい！　でも、作画にストーリーに演出…いきなり全てをアップデートするのは難しい。だったら、まずはひとつ自分の〝武器〟を手に入れよう！　そのためのテクニックを、その道の達人であるまんが家先生に直撃インタビュー。月イチだけのスペシャル連載です!!

第5回『オシャレな絵の達人』

梅澤麻里奈 先生

[次はいいよね、先輩]

留年して、もう一度高校2年生をやり直すことになった真緒。突然姿を消した恋人を忘れられずにいる真緒に、同級生になったサッカー部の後輩・蜂谷が猛アタックを仕掛けてきて…。

第5回のテーマはずばり〝オシャレな絵〟。オシャレな絵が描けないのは、自分にセンスがないせいだと思っていませんか？　もちろん、持ち前のセンスに寄るところが大きいのは事実ですが、センスやテクニックを磨くことで絵柄はぐっと垢抜けます。そこで今回は『次はいいよね、先輩』が話題沸騰中の梅澤麻里奈先生に直撃取材！　「**自分ではオシャレな絵だなんて思ったことない（笑）**」と言う梅澤先生ですが、デビューから10年経っても常に「オシャレ！」と思わせる絵にアップデートできているのは〝達人〟だからこそ。そんな梅澤先生に、時代に合ったオシャレな絵を描くためのポイントを聞いてきました！

その❶ 髪型と服装は〝リアルな流行〟を意識する

「**キャラをリアルに感じて欲しいので、流行は追うようにしています。特に流行り廃りの激しい髪型と服装は意識しますね**」と梅澤先生。情報収集は主にティーン向けの雑誌やインスタから。「**可愛いなと思った子の投稿を辿ると〝今〟の流行や生活が見えてくるので、それを参考に妄想をふくらませています**」。

〝遊び毛〟でイマっぽく!!

◀蜂谷はツヤよりも束感や毛の流れを重視。「**塗り終わってから細い〝遊び毛〟を足すとオシャレに仕上がります**」と先生。ちなみに男子キャラは「**一般人より芸能人を参考にしたほうがキマる**」んだとか。

ファッション

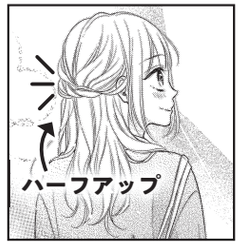
高校生のリアルな〝マネしたい！〟を反映できるように

高校生にとって制服のオシャレな着こなしはいつだって注目の的。「**今だと韓国風の着こなしとかですね。みんながマネしたい！って思ってるってことは、それだけ好感度が高いということなので、意識して描くようにしています**」と先生。蜂谷はギャップ萌えのパーカー、速人はチャラめのカーディガンなど、キャラに合わせるのも忘れずに。

髪型で〝キャラクター〟をしっかり見せる

瑠奈

◀「**瑠奈のテーマは〝病み可愛い〟なので、インナーカラー入りのツインテールにしています**」と言われて納得！　トーンでインナーカラーを表現しているのもさすがです。



真緒

◀流行を意識する性格の真緒は、軽めの前髪などハヤリど真ん中な髪型に。「**年上感を出すために、ハーフアップにすることが多いです**」。

番外編 先生のイチ推しシーン!!

繊細に時間をかけて仕上げられる、達人の絵。先生ご自身が気に入っているシーンは…？

オシャレに仕上がった1枚

「蜂谷の片耳にロングピアスをつけられて満足です！」

▲20号の見開きカラー扉は、ハートのメガホンや紫色のロッカーなど「**原宿を意識**」した1枚。オシャレなのはもちろん「**カラー扉だしと思って、思い切って蜂谷にピアスをつけて正解でした！**」と先生が言うように、色気したたる蜂谷に注目！

蜂谷の爆イケなシーン

「かっこよくボールを持てたな…と（笑）」

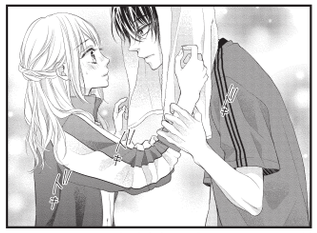
▲真緒とのバスケで挑発する蜂谷が先生一番のお気に入り。「**いつもはヒロインから決めるけれど、『次セン』では蜂谷をまず決めた**」というように、先生の萌えが詰め込まれたヒーロー・蜂谷。セリフといい、表情といい、最高です！

第6回新春1号は 愛されヒロインの達人 星森柚稀も先生 お楽しみに!!!

その❷ 〝繊細さ重視の描線〟でオシャレ見え

梅澤先生の絵の魅力のひとつに、繊細な描線があります。細い線はたしかにオシャレですが、そのぶん画面のメリハリが減るリスクも。しかし先生の絵からメリハリ不足は感じられません。「**男女の体格差を意識したり、要所要所で線を足しています**」と先生。繊細さのためにメリハリを諦めるのではなく、あらゆる箇所で工夫する…その姿勢が達人なのです。

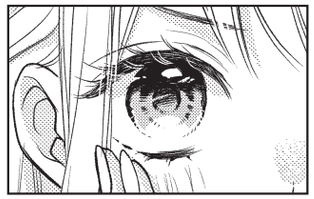
体格差がメリハリに



ヒロインとの体格差を見せるため、今作から男子キャラの肩幅を広めにしています」と先生。また「**細マッチョで男の子のヒジから下が好き**」な先生らしく、しっかりと筋ばった腕は力強く、描線が細くとも、体格差と合わせてしっかりメリハリを感じられます。

「描線をもっと太くと編集さんに指摘されたこともありますが、それ以外の方法がないか探して、今の絵に落ち着きました」

線を足してボリュームを



工夫は細かいところまで。「**女の子のまつげはバサバサ感を出したいので、普通にまつげを描いた後、ホワイトで補足している**」んだとか。オシャレな上に迫力も出る…まさに技あり!!

その❸ 扉はアングルとモチーフで勝負

▲「**本編の内容がシリアスなときは、扉だけでも楽しくしたい**」と先生。

作品の〝扉〟は、読者に「読みたい」と思わせる大事なページです。梅澤先生の扉は可愛くてオシャレなものだらけですが、それもしっかり情報収集しているからこそ。「**雑誌やインスタなどで気に入った構図や背景を覚えておいて、頭の中から適宜引き出して使っています**」と先生。さらに「**同じ構図でもアングルが変わると印象が変わるので、フィギュアをモデルに写真を上から撮ったり横から撮ったりして、いろいろ試している**」とのこと。モチーフも「**原宿のお店っぽい飾りつけや色味を意識**」したものだったり、大好きな童話だったり、センスだけに頼らない努力と工夫があの素敵な扉を生んでいるのです。

その❹ セリフで〝イマ〟感を

セリフは、キャラクターや時代を映す鏡。梅澤作品のセリフは、ズバ抜けて〝イマ〟な感じがするのも特徴です。先生曰く「**現代の高校生を描いていたいので、若者言葉はだいぶ意識して入れています。それだけで、キャラクターと読者の距離が近づく気がしますね。あとは、よりキャラクターらしい話し方や言葉選びを心がけています。たとえばゲーマーの蜂谷だったら、ゲーム用語を入れたりとか。そうすることで、キャラクターがよりリアルになります**」とのこと。ちなみに、蜂谷の敬語は「**年下男子に敬語を使ってほしいなって…**」という先生の〝萌え〟だそうです！